

[普及事項]

新技術名：ハイブッシュブルーベリーの有機物マルチ栽培法（平成18年）

研究機関名 果樹試験場 鹿角分場
担当者 船山瑞樹

[要約]

ブルーベリーの定植時に、苗木周囲にオガクズを厚さ10cm程度にマルチすると、土壤の保水効果が高く、初期の生育や収量が優れる。

[ねらい]

ブルーベリーの根はひげ根で浅根性のため、土壤の乾燥に弱く、ひどい場合は枯死に至る。そこで、土壤の乾燥防止と生育促進のため、有機物資材を中心とした複数のマルチ資材を用いて、それぞれの生育特性を検討し、効果的、かつ、経済性に優れた資材を検索する。

[技術の内容・特徴]

- 1．ハイブッシュブルーベリー「ダロウ」2年生樹を、平成12年4月に定植した。マルチ資材は、人工資材として防草・保湿シート、有機物資材としてオガクズ、モミガラ、パーク（スギ樹皮）を使用した。有機物資材は定植時にそれぞれの資材を厚さ10cm程度になるよう株元にマルチした。対照は無処理とした。全ての植え穴には良く湿らせたピートモスを10Lずつ施用した。
- 2．樹高は、定植後1年目は防草・保湿シートが最も優れたが、2年目以降は他の有機物資材とほぼ同等となった。有機物マルチをすると、定植後1，2年目は無処理に比較して生育が良好で、枯死のリスクが高い初期生育の生長確保に有利である（図1）。
- 3．樹幅は、定植後1年目はモミガラが優れたが、定植後4年目では防草・保湿シートが最も優れた。有機物の3資材の生育量はほぼ同程度で、無処理は最も生育が劣った（図2）。
- 4．収量は、初成り（平成14年）及び収穫2年目ともに、オガクズが安定して高く、1果当たりの平均果重もオガクズが最も高かった（図3，図4）。
- 5．有機物マルチをすると、土壤の深さ20cm部位の土壤pF値が低く保たれ、無処理と比較して明らかに土壤の乾燥防止効果があり、乾燥による枯死のリスクを低減できる。（図5）。

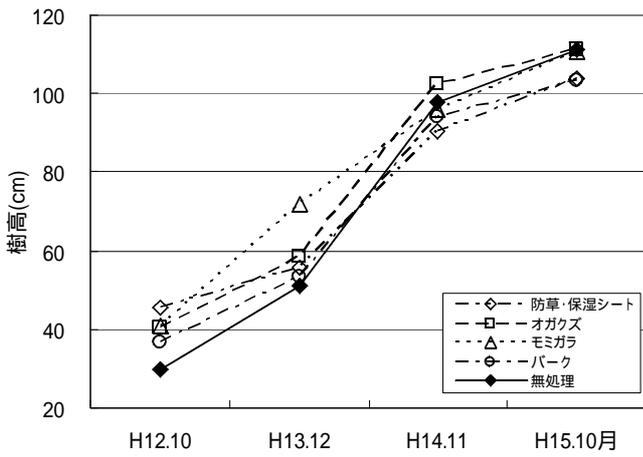
[普及対象範囲]

県内のブルーベリー生産農家

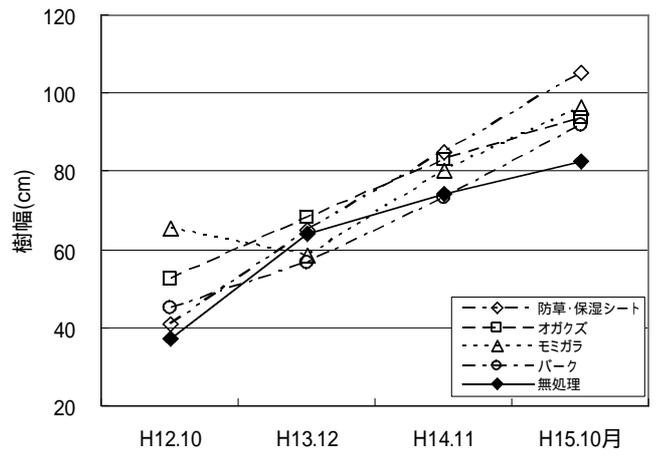
[普及・参考上の留意事項]

- 1．有機物資材は年数を経ると消耗するので、定期的に補充する必要がある。
- 2．有機物のマルチ量が少ないと、土壤乾燥防止効果や抑草効果が劣るため、最低でも厚さが10cm程度になるようにする。

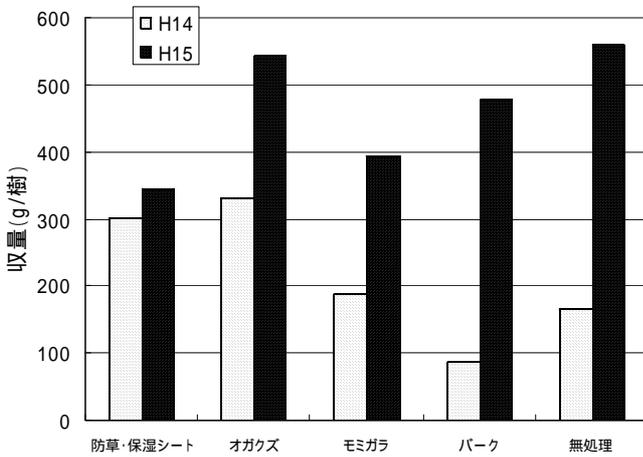
[具体的なデータ等]



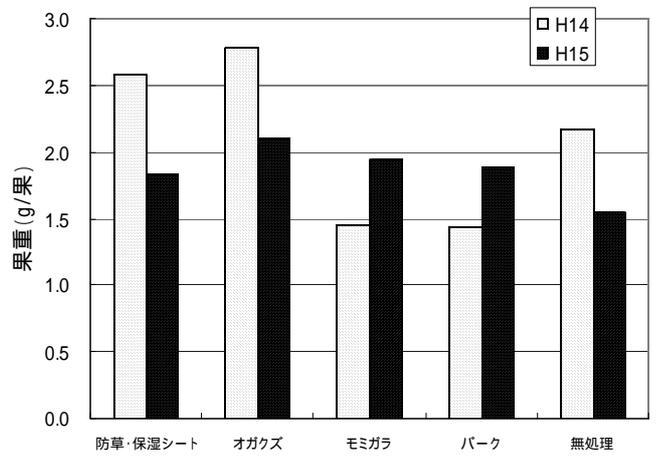
第1図 樹高の年次変化



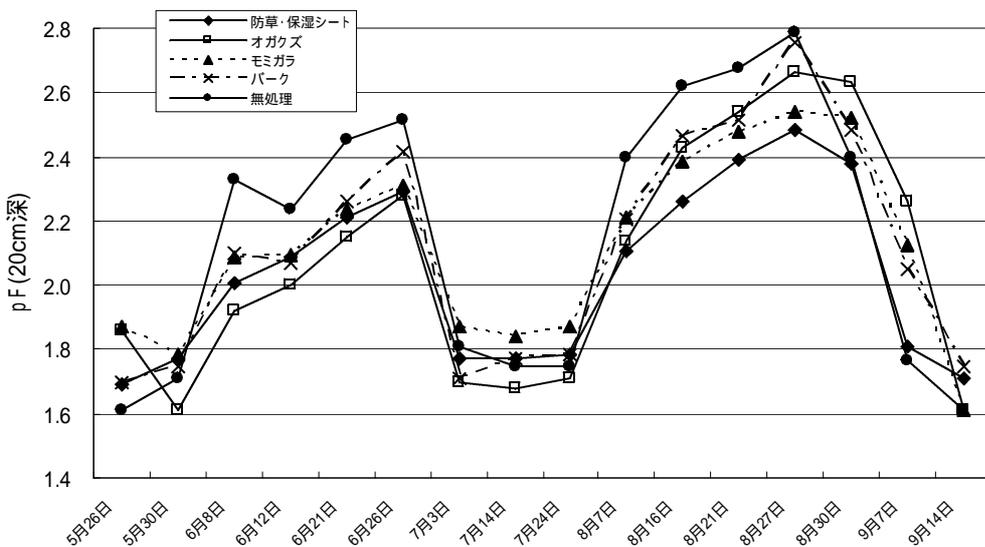
第2図 樹幅の年次変化



第3図 収量の変化



第4図 平均果重の変化



第5図 土壌pFの変化(平成12年)

[発表文献等]

なし